

言葉で不調を訴えることのできない犬たち。飼い主がいち早く愛犬の体調不良を察知することが大変重要です。2回に分けて「家庭で見てほしい健康チェックの項目」をご紹介します。



①目 輝き、色、涙の量や目やに、充血、ショボつき、左右の大きさ、動きを確認しましょう。黄色い目やには感染症、ショボつきは角膜炎などの可能性があります。結膜炎では結膜が赤く腫れ、涙や目やにが出ます。

②耳 臭い、腫れ、かゆみの有無、耳垢の量、色など確認しましょう。外耳炎では後

あんしんペットライフ

95

犬が健康に過ごすために ①

肢で耳を引っかく▷首を振る▷頭を傾げる一などのしぐさをすることがあります。

③鼻口 鼻水、くしゃみやせき、呼吸を確認しましょう。鼻水は感染性疾患、せきは呼吸器系疾患、くしゃみはアレルギーや鼻腔内異物、歯科疾患の可能性があります。熱中症や心臓病などで、呼吸が早かったり荒かったりすることがあります。

④口腔 口臭、歯垢・歯石、よだれ、歯茎の色を確認しましょう。口臭や歯垢・歯石は、歯周病の可能性があり

ます。また、歯茎の色が白いときは貧血、黄色いときは黄疸おうだんの可能性がります。

⑤皮膚と被毛 かゆみ、臭い、湿疹や発赤、フケ、べとつきなどがいないか確認しましょう。湿疹や発赤は真菌などの感染で起こることがあります。

日頃のスキンシップで、愛犬の「いつもと違う病気のサイン」を見逃さないようにしましょう。

(アニコム損保
獣医師 山田恵理子)